

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可
昭和52年10月20日発行(毎月1回20日発行)
物 性 研 究 第29卷 第1号

vol. 29 no. 1

物性研究

1977 / 10

1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、プレプリント案内、ニュースなどです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不相当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で private communication 扱いにして下さい。

投稿規定

1. 雑誌のページ数を節約するために原稿は極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は400字詰原稿用紙を使用して下さい。
3. 数式、記号の書き方は Progress, Journal の投稿規定に準じ、ミスプリントが生じないように適当な処置をとって下さい。上ツキ、下ツキは特に紛わしいもののみを指定して下さい。英字の大、花文字、ギリシャの指定を忘れないように、o と a と 0 (ゼロ)、u と n と r、c と e、l (エル) と 1 (イチ)、x と × (カケル)、u と v 等が一番間違いやすい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図の縮尺、拡大は致しません。1頁以内に入らない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけさけるようにして下さい。
8. 別刷は原則として作りません。どうしても別刷が入用な場合は、投稿の際に所要部数を50部単位で申込んで下さい。別刷代は下記方式により、現金で納入していただきます。

(郵券による受付はいたしません。)

p : 物研出来上り頁数

x : 別刷所要部数

a : 別刷1頁の代金 3円

b : 製本代(別刷1部につき) 30円

$$\text{別刷代} = (ap + b)x + \text{送料}$$

別刷代金は別刷を受取ってから、1ヶ月以内に納めて下さい。それより遅れた場合には遅滞追徴金を請求されることがありますから、御注意下さい。

9. 原稿締切日は毎月20日で原則として次月発行誌に掲載されません。

海外便り

〔氷上忍 → 長岡洋介〕

8. 31/77 イスラエル発

イスラエルに来て、日本の夏を思い出しました。ヨーロッパと較べて 10°C 程イスラエルの気温が高いようです。イスラエルに入国する前は取り調べが厳重で緊張させられましたが、Haifaのテクニオンでやっている統計力学の会議STATPHYS 13ではのんびりしたもので、ときどき軽機関銃を持った学生らしき人が見回る程度でした。会議は間に2日間の休日をはさんで、前に3日と休日後に2日間、わりにのんびりしたペースで行われました。参加者は名簿でみると280名程度で、イスラエルから40名、ドイツから38名、U.S.A.から33名、オランダから23名、イギリス・フランスから各19名、イタリアから14名、その次に日本で13名でした。東欧からはわずかにハンガリーのSzephalusyとSolyom、ルーマニアから1人で、ソ連からは来ていなかったようです。ヨーロッパはやはり近くて多数の人が来ていましたが、U.S.A.や日本はそれに較べてわりと少ない感じがしました。

開会日にドムがオンサーガーの死んだのをいたんでオンサーガーの活躍ぶりを振り返り熱のこもった話しをしました。ドムは会議の間中、頭に丸い帽子をつけてJewishぶりを大いに示していました。続いて、Callenが代表して第2回ボルツマン賞を久保亮五先生に贈呈しました。日本の物理にとって非常に名誉あるニュースです。

久保先生は贈呈式のあと、最近の非線型緩和と揺動の話しをされました。いろいろな人と顔を知りあうことが出来た。コーヒーの時間の後、Nelkinの乱流の話し、Levinの話しがあり、パラレルセッションに移りました。パラレルはポスター部と口述部にわかれ、さらにテーマ別に分かれているので、とうてい全部を見たり聞いたりはできませんが、全部口述の時よりはポスター部門を使った方が有効であることは確かです。日本の物理学会もポスター部をつかったらどうかという声も出ていました。

会議では、invited lectureが面白く、Domb, Aharony, Van Leeuwen, Brézin, Schulman, Lecar Grécos, Haken, Kac, Simon, Mandelbrot, Baxter, Kadanoff, Satz, Azbel, Lubensky, Zallen,

de Gennes などがそれぞれ Review を含めた専門の話をして、今後の発展の方向を知るにはよいものでした。特に今後、Princeton の Simon らのやっている 厳密な取扱い、Domb, Schneider の percolation の問題、de Gennes が示した高分子の問題などが興味を引きそうです。変わったものでは 2 次元系の話がパネルディスカッションでありました。時間が限られていて、充分ディスカッションまでいきませんでした。同じ 2 次元系の相転移のテーマで別々の人がそれぞれ考えていることを続いて話すので、専門外の人でも興味をもてるものでした。Kac が議長で Wu, Solyom, Zittartz, Kadanoff, Gutfreund が話をして、Brézin の所までは時間切れでまわってこなかったのは残念でした。Kadanoff は会議の間中、赤いチョッキに “タングステン上のクォーク” を大書してユニークぶりを発揮していました。

2 日間の休日には、ガリラヤ湖、ゴラン高原、エルサレム市内などをバスで訪れましたが、特にエルサレムは時間が短かくて、十分見れませんでした。レンタカーを借りた方がよかったです。次回の会議は 1980 年にカナダのアルバータ大学でやるそうです。

物性研究編集員の方にもよろしくお伝え下さい。それでは又、パリに帰ったら連絡します。

ニュース

〔東京大学教養〕

◦セミナー

9月16日 J. M. Goodkind “Magnetism and other properties of Solid ^3He in
mK region” (University of California, San Diego, La Jolla)

〔東京大学物性研究所〕

◦人のうごき

8月 9日 福山 所員 } ベル研より帰国
8月21日 守谷 所員 }

〔名古屋大学〕

◦特別講演会

9月12日 “超低温物理について”
Prof. O. V. Lounasmaa (ヘルシンキ大)

◦談話会

9月16日 “Macroscopic Parity Non-Conservation due to
Neutral Current” Prof. A. J. Leggett (Univ. of Sussex)

9月19日 “薄膜のエピタキシャル成長の電子顕微鏡によるその場観察”
東工大教授 本庄五郎氏

編 集 後 記

今月号から、勝木さんの“物性研究史”の連載がはじまりました。勝木さんからいただいたお手紙によりますと、この曾禰さんの話がすんだあとは、わが国で量子力学がどのように受容されたか、本多スクールとその近代化、わが国における近代的物性論の萌芽といったテーマが取り上げられるとのこと。豊富な聞き書きをもとにして書かれる研究史ですから、いきいきとした物語が展開されることと思います。

先日物性研に行きましたとき、「物性研究」の編集者としてはうれしい話を聞きました。物性研の図書室でどの雑誌が利用されているかの調査をしたところ、「物性研究」が上位にランクされたというのです。今月号はいつになく厚くなりましたが、内容的にも豊富であったと読んでいただけたでしょうか。

(Y. N.)

物 性 研 究

第 29 卷 第 1 号
1977年10月20日発行

発行人	長 岡 洋 介 京都市左京区北白川追分 町 京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所 京都市上京区上長者町室町西入 TEL(441)1659 (431)4789
発行所	物性研究刊行会 京都市左京区北白川追分町 京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内

編 集 後 記

今月号から、勝木さんの“物性研究史”の連載がはじまりました。勝木さんからいただいたお手紙によりますと、この曾禰さんの話がすんだあとは、わが国で量子力学がどのように受容されたか、本多スクールとその近代化、わが国における近代的物性論の萌芽といったテーマが取り上げられるとのこと。豊富な聞き書きをもとにして書かれる研究史ですから、いきいきとした物語が展開されることと思います。

先日物性研に行きましたとき、「物性研究」の編集者としてはうれしい話を聞きました。物性研の図書室でどの雑誌が利用されているかの調査をしたところ、「物性研究」が上位にランクされたというのです。今月号はいつになく厚くなりましたが、内容的にも豊富であったと読んでいただけたでしょうか。

(Y. N.)

物 性 研 究

第 29 卷 第 1 号
1977年10月20日発行

発行人	長 岡 洋 介 京都市左京区北白川追分 町 京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所 京都市上京区上長者町室町西入 TEL(441)1659 (431)4789
発行所	物性研究刊行会 京都市左京区北白川追分町 京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内

講読規定

個人講読

1. 会費 当会の会費は前納制をとっています。したがって、3月末までになるだけ1年間分会費を御支払い下さい。
なお新規講読の場合は下記の会費以外に入会金として、100円お支払い下さい。

1年間の会費

1 st volume	2,340円
2 nd volume	2,340円

計 4,680円

(1年分まとめてお支払いが困難の向きは1 volume 分ずつでも結構です。)

2. 支払いの際の注意：なるべく振替用紙を御利用の上御納入下さい。
なお通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。
3. 雑誌購読者以外の代理人が購読料を送金される場合、必ず購読者本人の名前を明記して下さい。
4. 誌代の支払遅滞の場合：当会の原則としては、正当な理由なく2 Vols.以上の誌代を滞納された場合には、送本を停止することになっていきますので御留意下さい。
5. 一括送本を受ける場合：個人購読中に大学等で一括配布を受ける様になった場合は、必ず「個人購読中止、一括配布希望」の通知をして下さい。逆の場合も同様です。
6. 送本先変更の場合：住所、勤務先の変更等送本先が変わった場合は、必ず送本先変更届を提出して下さい。

学校、研究所等機関購読

1. 会費：学校・研究所等での購読及び個人であっても公費払いのときは機関会員とみなし、代金は、1 Vol. **4,380円**、1冊**730円**です。この場合、入会金は不要です。学校、研究所の会費の支払いは後払いでも結構です。しかし購読申込みをされる時に支払いに必要な請求見積、納品書各何通必要なのかをお知らせ下さい。
なお、当会の請求書類では支払いができない様でしたら、貴校、貴研究機関の請求書類を送付して下さい。
2. 送本中止の場合の連絡：発行途上にある volume の購読途中中止は認められません。購読中止される場合には、1ヶ月前ぐらいに中止時期を明記して「購読中止届」を送付して下さい。

物 性 研 究 29—1 (10月号) 目 次

- 曾祢武(そね・たけ)の歩み——聞書きにもとづく物性物理学史(1)——
.....勝木 渥.....1
- 箱根超低温シンポジウム見聞記.....長岡洋介・大見哲巨・水崎隆雄.....21
- 海外便り
氷上 忍(Haifa) —————→ 長岡洋介(基研).....30
- ニュース.....32
- 編集後記.....33
- 研究会報告
「臨界現象」.....A1

物 性 研 究 29—1 (10月号) 目 次

- 曾祢武(そね・たけ)の歩み——聞書きにもとづく物性物理学史(1)——
.....勝木 渥.....1
- 箱根超低温シンポジウム見聞記.....長岡洋介・大見哲巨・水崎隆雄.....21
- 海外便り
氷上 忍(Haifa) —————→ 長岡洋介(基研).....30
- ニュース.....32
- 編集後記.....33
- 研究会報告
「臨界現象」.....A1